

「住民」の充実

府立病院利用者 地域住民アンケート

住民の声を聞いて、住民のための病院を充実・発展させよう」とアンケートのとりにくみをスタートしました。

すでに4つの病院でとりにくみがすすみ、1200名を超える患者・利用者・地域住民のみなさんから回答が寄せられています。どの病院でも非常に協力的で、「もっとがんばってほしい」「この先生や看護師さんはずいぶんいいね」などの



連載5

住民と考える 地方自治

大阪難病連の組織と活動についての教えてください。

大阪難病連は、地域単位の患者団体、疾患ごとの患者会なども実施しています。秋には「学習講演会」と「難病医療相談会」(別掲)も予定しています。

「いま」難病患者に対する医療等に関する法律や「医療介護総合法」、「社会保障推進法」などが次々と強行されていますが、具体的にどんな影響が考え

「ピアカウンセリングは1970年代初め、アメリカで始まった自立生活運動の中でスタートしました。自立生活運動は、障害を持つ当事者自身が自己決定権や自己選択権を育て、支えあって、隔離されることなく、平等に社会参加していくことを目指しています。ピア・カウンセリングとは、自立生活運動における仲間(ピア)への基本姿勢のようなものです。(全国自立センター協議会ホームページより)

法制化されようとしています。この法律では、56疾患が300疾患に拡大されます。対象疾患は増えますが、これまで自己負担がなかった方も、自己負担がでることになります。

「医療・介護総合法」は、十分な審議もなく、とても短期間でつくられました。その内容は、医療を必要とする人たちの切り捨てです。「社会保障推進法」では、「自助・自立」が強調され、「病気は自己責任」という考え方が貫かれています。

度も導入され、難病患者は、指定された病院へ行かなければならなくなります。また、「障害者総合支援法」により、難病患者も支援を受けられるようになりましたが、65歳になったら介護保険に切り替えられ、本人負担が増えることになりました。

「大阪府や自治体に対して、感じていることはありますか。

病院や保健所など自治体機関が遠くなったと感じます。難病患者が一番不安なのは「自分はこれからどうなるのか」ということです。その不安を取り除いてくれるのが、相談や制度の手続きなどを手伝ってくれる保健師の方たちです。

昔は、よく自宅訪問もしてくれ、細かいところまで気にかけてもらえて、とても身近な存在でした。今ももちろん相談の対応はしてもらっていますが、保健所の統廃合や職員・保健師の削減もあって、訪問が難しくなっているのが現状のようです。

「難病センター」の設立について、2000年の府議会が採択されました。ところが「お金がない」という理由で、14年経った今も建設の予定はありません。1日も早く実現してほしいです。

大阪の難病患者は、2013年3月末現在、56疾患で約6万人と言われています。これが300疾患まで広がると、約1・5〜2倍に増える予想されています。しっかりと対応できる職員体制が必要です。やはり、保健所や府立の病院は、公的機関であり信頼性が高いです。いっそう充実させてほしいです。

「知らない」「こは恐ろしい」と実感 核兵器廃絶へ―あきらめないことが大切

原水爆禁止2014年 世界大会in広島

8月4日(月)〜6日(水)、広島県立総合体育館にて「原水爆禁止2014年世界大会」が開催され、日本国内はもとより世界各国から政府代表も含め、7千人が参加しました。府職労は組合員のみならずから寄せられた「代表派遣カンパ」で2名の代表を派遣しました。



中曽根 万紀子さん (青年部副部長)

1日目は、開会式に出席しました。日本各地だけではなく世界各国から集まっていると聞いて感動しました。そして、欧米では核縮減・廃絶への関心がそれほど高くないことを知り、衝撃を受けました。「知らない」から「関心を持ってない」のだそうです。

2日目は、分科会に参加しました。私は「原爆遺跡めぐり」に参加し、被爆者の体験を聞き、原爆遺跡(広島城の地下施設、爆心地から700mの小学校など)を巡り、ガイドさんの話を聞きました。被爆者の高齢化がすすむものと、語り継ぐ取り組みが大事だと教わりました。また、核エネルギーの凄まじさも学びました。とても、人間に制御できるものではないと思いました。

3日目は、原爆慰霊祭と閉会式に参加しました。46年ぶりの雨の中、慰霊祭が行われました。原爆の被害者は、

いまだに正確な数が分かっていないそうです。また、原爆が米国の実験で投下されたことを初めて知りました。尊い命が、実験のために失われたと思うと悔しくてたまりません。二度とこんな愚かなことを起こさないように、努力することを慰霊碑に誓いました。

日本国内でも、原爆や戦争の恐ろしさを知らない人たちが増えています。「知らない」から「関心を持ってない」のは、恐ろしいことです。「知らない」から、集団的自衛権の行使を容認し、「知らない」から武器を輸出する。「知らなかった」で済まされるのでしょうか。今回の大会で「知る」こと「広める」ことの重要性を学びました。私も微力ですが、平和について広めていく一助になればと思います。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

参加者の感想

山本 桃代さん (府職労副委員長)

世界の国々での核兵器廃絶をめざすとりにくみを知り、運動の広がりを実感しました。被爆された方の「死ぬまで続く苦しみ」という話を聞き、想像しがたい苦しみに胸が痛みました。

2日目の分科会は、岩国基地調査行動に参加しました。東京ドーム170数個分という米軍基地の広さに驚きました。そして、この基地建設は大手ゼネコンが請け負っていると聞き、「戦争する国づくり」が、政府・財界一体ですすめられていることを実感しました。

海兵隊の飛行機部隊として、ここから米軍が侵略戦争(朝鮮戦争・ベトナム戦争・湾岸戦争・アフガン戦争・イラク戦争など)を行い、人

を殺すための手助けをしていると思うと恐ろしさが増してきました。安倍政権の暴走を止めることが必要と強く思いました。

3日目の閉会総会では、被爆70年、核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれる2015年を「核兵器廃絶への決定的な転機に」するため、草の根から広大な世論と運動をつくらうとよびかける「広島決議」を採択しました。

最後は、全員での「We shall overcome」(勝利は必ず)の大合唱で閉会しました。私たちの行動は、あきらめないことこそが大きな運動だと強く感じました。

「府職労への意見、期待」府職労は、住民共同などの取り組みに奮闘していただいていると思います。さらに期待を込めて「もっと共同の輪を大きく広げてほしい」と思います。

「ありがとうございます」

府職労青年部 第58回定期大会

とき：10月10日(金) 19時〜20時30分

ところ：府職労会議室

青年部定期大会を開催します。「労働組合について」の学習と2015年度の運動方針を決定します。堅苦しくない青年らしい大会にしようと考えています。軽食・飲み物も準備していますので、多くの青年の参加で楽しく交流しましょう。